

## 飛行場の歴史に学ぶ



玉名市に飛行場建設が予定されたのは太平洋(大東亜)戦争が始まった翌年の昭和17年春で、陸軍の少佐が大浜町役場を訪れ、大浜町北部の水田地帯が飛行場候補地となったと伝えられています。その後、昭和18年9月、大浜町・北牟田・横島村の水田地帯に飛行場建設が始まりました。

元号	西暦	日本・世界	大浜
昭和17年	1942年	米軍機本土初空襲	飛行場建設の候補地となる
昭和18年	1943年		大浜飛行場建設決定と立ち退き命令
昭和19年	1944年	神風特別攻撃隊出動始まる	大浜飛行場の一部完成 少年飛行生入隊 開隊記念式典が行われる 特別幹部候補生入隊
昭和20年	1945年	アメリカ軍沖縄本島上陸  日本敗戦・終戦	米軍B29による空襲 米軍艦載機による空襲 大浜に住む人も12人亡くなった
昭和21年	1946年		県内外のいろんな方が入植し始める

**Q** なぜ大浜に飛行場ができたの？

**A** 太平洋(大東亜)戦争が始まって1年、南太平洋では、日米両軍の激しい消耗戦が連日展開されていた。そこで、飛行機の増産と添乗員の養成・補充が全てに優先される急務となったから。また、大浜は、広い平野と海が近いこともあり、飛行場を建設するにも好条件の場所だった。

**Q** 大浜飛行場ではどんなことが行われていたの？

**A** 昭和19年4月に大刀洗飛行学校十八分校の一角として「玉名教育隊」が開隊し、少年飛行兵15期生120人が入隊し、飛行に向けて本格的な訓練をしていた。その後、15期生は卒業し、8月には陸軍特別幹部候補生操縦第1期生120人が入隊し新たな訓練が行われた。

**Q** 戦争によって大浜にはどのような被害があったの？

**A** 沖縄戦で被害が増大する九州・四国方面からの特別攻撃を阻止するためマリアナの米軍基地からB29が発進し、内2機が5月10日午前7時50分に初めて大浜飛行場を空襲した。この日の空襲で250kg爆弾が20発落とされ、本部、車庫、無電室、物置五棟が全壊し、軍人5人が亡くなった。また5月13日午前7時35分、米軍空母二隻の艦載機59機による攻撃を受けた。この2回目の空襲では、民間人12人が亡くなり、大浜だけではなく県内その他の飛行場でも重大な損害を被った。

大浜飛行場に着陸した陸軍特別攻撃隊機  
【特別攻撃隊の記録】より



## 戦争の足跡

玉名教育隊施設の規模

○飛行場の規模 縦横1500m 総面積 約240ha

○計画された滑走路 長さ 1000m 幅75mの2本

※昭和20年5月米軍の空襲を受けた時点では東側800m 西側600mが完成



1945年7月27日撮影

番号	建屋	説明
51	衛兵詰所跡	
52	陸軍守備隊兵舎跡	1個中隊の平屋兵舎3棟があった
53	航空教育隊兵舎跡	少年航空兵10期生120名がいた(昭和19年4月~8月迄) 特別幹部候補生1期生120名がいた(昭和19年8月~20年5月迄)
54	大型格納庫跡1	外壁基礎部分が残っている
55	航空本部跡	司令室・通信室・対空監視所等があった 基礎部分が残っている
61	小型格納庫跡1~6	この周辺に小型格納庫があった(合計6棟) 今も当時の井戸が残っている
62	待機所・準備線跡	コンクリート敷きでおよそ幅100m奥行30mだった
63	大型格納庫跡2	外壁が原形を留めており 裏に弾痕が残っている 幅・奥行共約45m程あり練習機8機が格納できた
64	整備工場跡	ここに飛行機の整備工場があった
65	弾薬庫・油倉跡	赤レンガ造りの建物3棟があった
66	食堂跡	建物の基礎部分が残っている
67	井戸・給水塔・浴場跡	当時の井戸と風呂場が残っている
68	医務所跡	建物の基礎部分が残っている
69	集会所跡(酒保)	赤レンガの場が一部残っている
70	大浜飛行場滑走路跡	排水路をはさみ東側と西側に2本の滑走路があった

赤レンガ造りの塀



井戸

大型格納庫

平成22年8月設置



これは大型格納庫の基礎。こんなに大きな建物があったのか。

大型格納庫の基礎に銃弾の跡がある。激しい戦争の跡が今でも残っているな。



待機所・準備線跡

ここから飛行操縦の訓練をしたのか。とっても長いね。